

「ゴー、ウエスト！ ヨーロッパ激烈2週間」の巻

其の六

考えてみればカヘー君が来てからの3日間はいつも北駅で幕を明けていたことになる。しかし、今日もまたこの駅に来たのには大きな理由がある。そう、ユーロスターによるドーバー海峡越えが待っているからだ。さようならパリ、こんにちはロンドン！である。

列車での国境越え、しかも英仏の威信と技術の粋を集めた海底トンネル、となれば嫌でも気分は盛り上がる。それに、・・・実はここがポイントなのだけど、飛行機と違って離発着のリスクがないでしょ？ これは大きい。いくら最も安全な乗り物と言われても、一度事故が起これば大惨事。そして最もキケンな時間が離発着の時。

もうそれ以上どうすることも出来ない速度帯、V1～V2と呼ばれる時間だ。この速度域の場合、何か起こればまず落ちるしかない。

毎度祈るような気持ちで飛行機に乗らなくてはならないのだから、それはもう結構なストレスになる。列車でも事故はあり得るけど、強烈なGを肌身で感じながら「きゃ～、落ちてるっつ！」ってな恐怖感はまず無いわけで・・・。こんな所で小心者を露呈してしまうとは。まあいい。

それにしても意外と狭い車内と、スピードの遅さにはがっかりした。特に、フランス国内はレールが良くて揺れないし、300キロ近い速度も出てる(らしい)けど、イギリス国内に入ると急に揺れ始めて速度も普通列車並に落ちる。しかも、最もがっかりしたと言え、トンネル内部についてだ。

冷静に考えればそんなことは有り得ないのだけど、海底トンネルと言え、手塚オサムの漫画に出てくるような、一面ガラス張り、周りではタコやヒラメの舞踊り・・・、ってのを期待してたんですけど。それが実際は地下鉄となあ～んにも変わらない(電灯もないから日本の地下鉄より味気ないかも)。それに、トンネル通過時間といえ、せいぜい20分程度。ちえつ、つまらん。これじゃ、青函トンネルとかと変わらないでやんの。

とか言いつつ、一時の旅気分も東の間列車はロンドン、ウォータルー駅へ。ここで空港と変わらないパスポートコントロールを受けた後、ようやく外の空気を吸えた。しかし、今まで空からのアプローチでしか「国境を超える」という経験が無いせいか、何とも不思議な気分。それに、もうここは日本と同じ左側通行で、英語の国。「おおっ！ 看板が読めるねえ」の一言に「確かに」とカヘー君。

更に別の駅から列車に揺られ、いよいよオクスフォード界限に到着。このイギリス滞在中はカヘー君の家に泊まらせてもらったので、荷物を置いて早速、疲れている彼をよそに、この街の散策に出かけた。決して大きな街ではないが、やはりイギリスらしい風情で、とにかく超曇天。しかも寒い！

イタリア、パリと超快晴、さっぱり快適指数100%だっただけに、同じヨーロッパなのに・・・、とまたもや不思議な気持ちになる。

今回イギリスで最も楽しみにしていたのは、何と言っても「フィッシュ&チップス」これに限る。残念ながらこの日は土曜日で多くの店が閉店だったけど、この鼻はあの匂いを逃さない！ 歩き回って遂に愛しの「フィッシュ&チップス」屋を見つけたのだ。

おもむろに「コッドちよーだい」と頼む。ちなみに、このフィッシュ&チップスの魚には色んな種類があつて、店にもよるけど大概5〜6種類ある。その内、コッドと呼ばれるのが最もスタンダードで(多分ね)、全種試した訳じゃないけどプレイスって呼ばれる魚が自分では気に入っている。なのに店を見つけた余りの興奮で、思わず「コッド」と言ってしまったことが唯一残念でならない。

席に陣取って、皿からはみ出たフィッシュにナイフを入れる。や、ちょっと待った、重大な忘れ物だ。食べる前に、備え付けのワインビネガーと塩をしこたまかける。(塩は適量ね)
魚も、チップスもワインビネガーでヒタヒタにして食べるのが好きだ。(其の壺でも書いた)
「いっただっきま〜ス！」

嗚呼、これこそ待ち望んでいた味。口に運んではまたワインビネガーをかけ、を繰り返してたらボトルが空になってしまった。ま、酢と塩はタダだからねえ・・・。
「う〜ん、幸せ」そして大満足で店を出る。肌寒さが結構心地いい。

翌日。いよいよBARに潜入の時が迫る。
エフワンの世界でBAR(ブリティッシュ・アメリカン・レーシング)はまだ比較的新しいチームだ。それだけに工場が近代的できれい！トイレの水も物凄い勢いで流れるし、さすが！（何がだ・・・）

最初にデスクワークの人たちの部屋に行く。設計関連室が以外にも普通の部屋だった。考えてみれば、今や設計から生産まで一連コンピュータ管理してるわけで、大量のドラフターがズラ〜っと並んでるのは過去の話だわな。

次にメンテナンス部屋へ。この日、幸運にも数台のマシンが整備途中、及び搬出待ちで、見学するにはもってこいの状態。「ほほう、ナルホド」「はあ〜ん」「へえ〜」この言葉を何度言ったろう。さすがにエフワン、よく出来てる。

マシンショップ、ファブショップ、この辺はまあ何処もそんなに変わるもんじゃない。ただしコンポジットショップは凄い。当然といえばそれまでだけど、作業場の管理から使ってる道具に至るまで、まあ金がかかってること。

もはや、この工場では全て製品管理しやすいプリプレグ作業ばっかで、汚いペタペタ仕事なんてのは皆無！（この辺は業界の人しか分かんね）「いいなあ・・・」ちょっとだけ羨ましかったりして。

感心したのは、今話題のポスト・リグなる測定機と、破壊、強度試験機。これってまさに研究室。でも、やることが多くて大変そう・・・。

でも一番驚いたのは何と言っても食堂。いや、「食堂」なんて大衆的な呼び方が失礼に思うほど立派な「レストラン」の存在。しかも、ソフトドリンク飲み放題！なのだ。さすがエフワン、太っ腹。まるでガストやバーミヤン(注:ファミレス)みたい。日曜日だったので、残念ながらランチは出来なかったけど、それにしても何て羨ましい限り。福利厚生もバッチシです。



BARからの帰り、シルバーストン・サーキット横のジョーダンと、ちょっと離れた所にあるプロドライブにも寄る。でも、これはホントに寄っただけね。くそう、前もってイギリス上陸を計画しときゃ、ジョーダンでエンジニアやってるくHが>さんにもコンタクト出来たのに。って、後の祭。



でもこの日くHが>さんと電話で話す機会があった。「元気？今何やってんの」とくHが>さん。「失業者です」……、だって他に言いようが無いじゃない？この場合。「もう日本帰るの？」「ええ、明日パリに向かって、明後日の飛行機で帰ります」「なあんだ、仕事あったのに」「……」数秒沈黙の後「…え？」

なんですと？失業者に向かって「仕事がある」の言葉は、まさに砂漠にオアシス状態。「でも、もう帰るんでしょ？」……、くHが>さん、あなたってヒトは。もしかしてサドなのか？？

そんな気持ちも禁じ得なかったが、いずれにしても私はエフワンの仕事はそれほど積極的に興味がある訳じゃないしね。でも、そうやって声を掛けてもらえるのは、本当に有難いモンです。はい。

ところで、出来ればエフワンじゃなくて、<Hが>さんが個人的にやってるF3に物凄い興味あるんですけど。ま、これはまたの機会に、ってな事で。

この日の夜、カヘー君と最後の晚餐よろしく、インドカレー料理をたらふく食いまくった。もう、この満足感だけでムチャクチャ幸せである。

